



Arcserveによる クラウドを活用したデータ保護

2024年3月

Arcserve Japan

Arcserve によるクラウド活用 5つのテーマ



テーマ1

「災害対策」を足し算！ ～ D2D2C

テーマ2

資産を持たずにデータ保護！ ～ D2C

テーマ3

クラウドを活用して業務継続！

テーマ4

クラウド上システムの保護 ～ C2C

D2D2C : Disk to Disk to Cloud D2C : Disk to Cloud C2C : Cloud to Cloud

テーマ1：「災害対策」を足し算！ ～ D2D2C

オンプレミス と クラウド それぞれにバックアップデータを保管します。
通常時はオンプレミスのバックアップデータで素早くリストア。
災害発生時でもクラウド上にバックアップデータがあるためデータ損失を防げます。
既存のバックアップ運用環境に後付けで導入できる足し算の災害対策です。

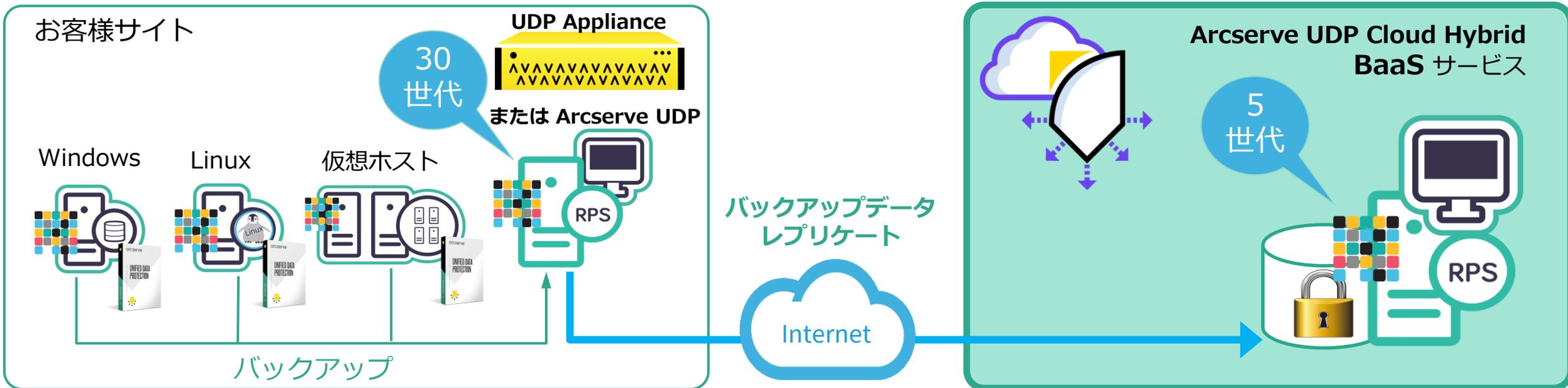


1-A)	Arcserve UDP Cloud Hybrid で D2D2C
1-B)	パブリッククラウドで D2D2C (バックアップデータのレプリケート)
1-C)	パブリッククラウドで D2D2C (復旧ポイント/ファイルのコピー)
1-D)	パブリッククラウドで D2D2C (バックアップデータのステージング)
1-E)	Arcserve UDP と Cloud Direct 併用 (D2D/D2C)

1-A) Arcserve UDP Cloud Hybrid で D2D2C



Arcserve UDP の RPS (復旧ポイントサーバ)/ Arcserve UDP Appliance
のバックアップデータを **Arcserve クラウドへ2次保管**



継続増分バックアップ
でフルバック取り直し不要

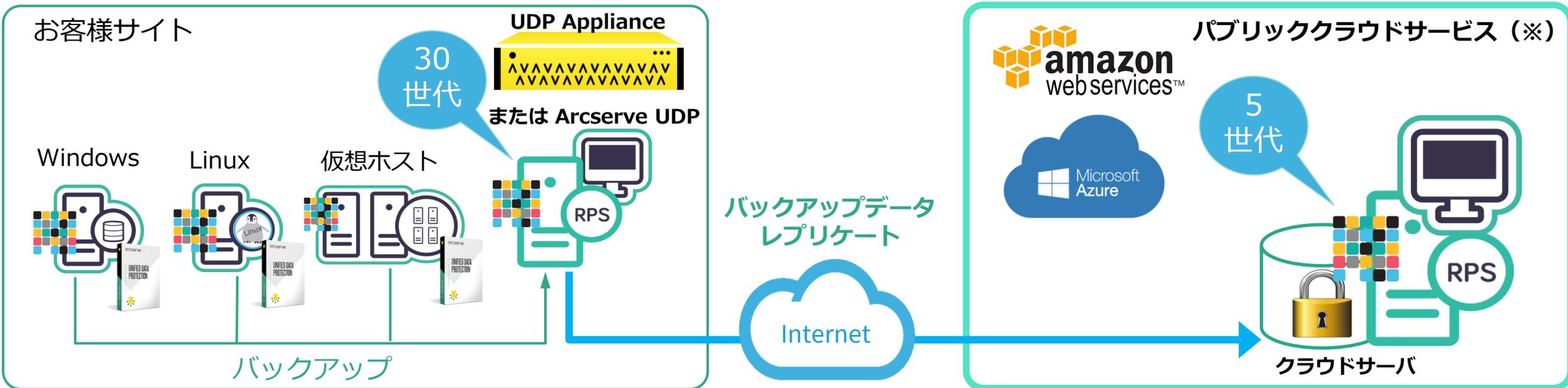
帯域制御、特定の曜日
/ 時間指定の転送

転送先を個別の
世代設定で管理

1-B) パブリッククラウドで D2D2C (バックアップデータのレプリケート)



Arcserve UDP の RPS (復旧ポイントサーバ)/ Arcserve UDP Appliance
のバックアップデータを **パブリッククラウドサーバへ2次保管**



継続増分バックアップ
でフルバック取り直し不要

帯域制御、特定の曜日
/ 時間指定の転送

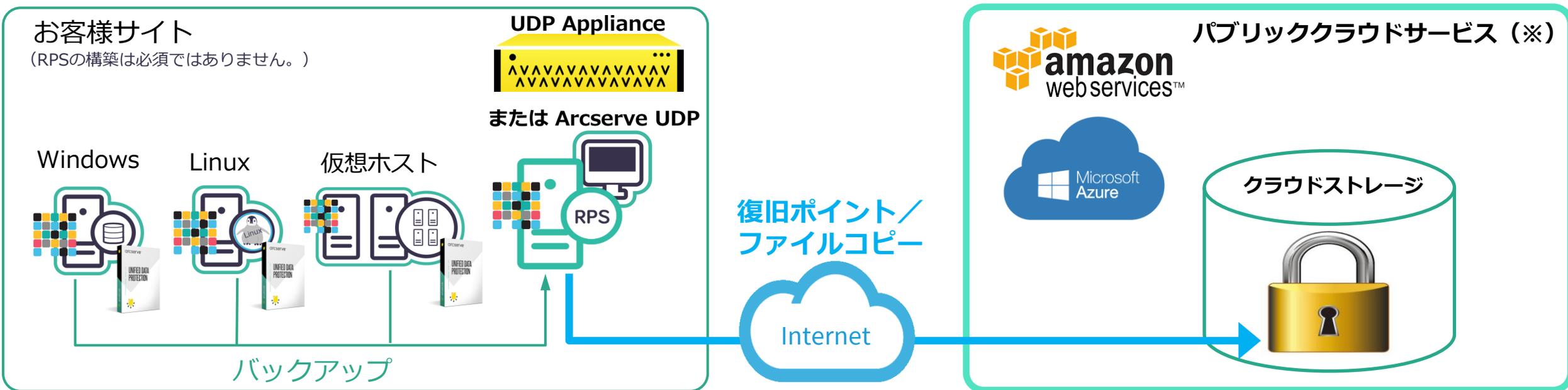
転送先を個別の
世代設定で管理

(※) 対応するパブリッククラウドサービスは動作要件をご確認ください。 <https://support.arcserve.com/s/?language=ja>

1-C) パブリッククラウドで D2D2C (復旧ポイント/ファイルのコピー)



Arcserve UDP のバックアップデータから
復旧ポイントまたは**特定重要ファイル**をパブリッククラウドストレージへコピー



復旧ポイントのコピーは
フルバックアップデータ

ファイルコピーは
継続増分でコピー可能

帯域制御、特定の曜日/
時間指定の転送

1-D) パブリッククラウドで D2D2C (バックアップデータのステージング)

Arcserve Backupのバックアップを
パブリッククラウドストレージへ **ステージング(2段階バックアップ)**

お客様サイト

Windows

Linux

仮想ホスト

Arcserve Backup



バックアップ/
ステージング

Internet

パブリッククラウドサービス (※)

amazon
web services™



クラウドストレージ



フルバックアップ/
増分/差分バックアップ

特定の曜日/
時間指定のバックアップ

D2D / D2C の
併用利用も可能

arcserve®

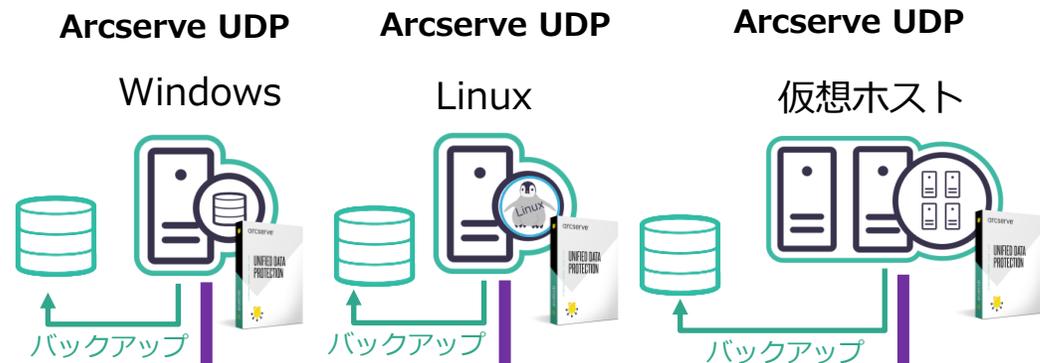
(※) 対応するパブリッククラウドサービスは動作要件をご確認ください。 <https://support.arcserve.com/s/?language=ja>

1-E) Arcserve UDP と Cloud Direct 併用 (D2D/D2C)

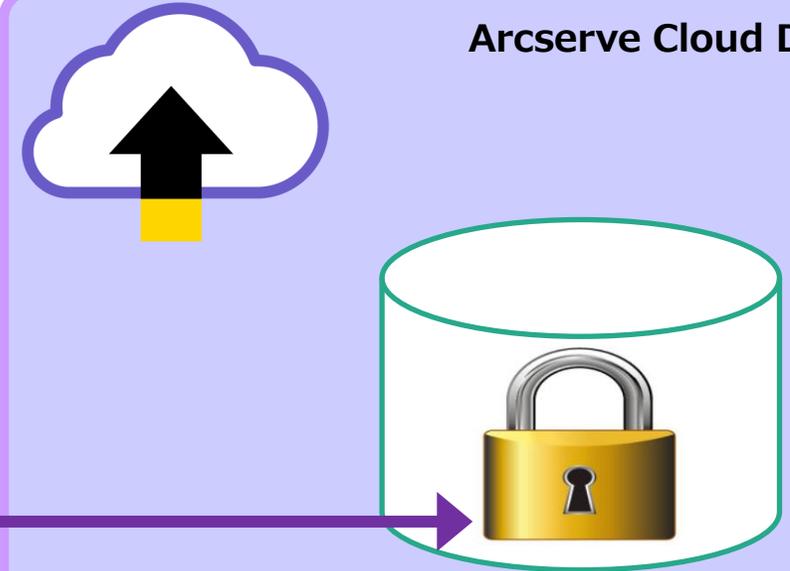


Arcserve UDP で **オンプレミスにバックアップ**
特定重要ファイルを災害対策に**Arcserve クラウドにもバックアップ**

お客様サイト



Arcserve Cloud Direct



継続増分バックアップ
でフルバック取り直し不要

帯域制御、特定の曜日/
時間指定のバックアップ

オンプレミスには
RPSの構築は不要

テーマ1：「災害対策」を足し算！～D2D2C 比較表



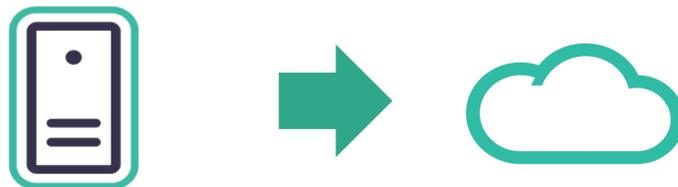
	1-A) Arcserve UDP Cloud Hybrid で D2D2C	1-B) パブリッククラウドで D2D2C バックアップデータの レプリケート	1-C) パブリッククラウドで D2D2C 復旧ポイント/ファイルのコピー	1-D) パブリッククラウドで D2D2C バックアップデータの ステー징	1-E) Arcserve UDPと Arcserve Cloud Direct 併用 (D2D/D2C) (※)
運用形態	D2D2C	D2D2C	D2D2C	D2D2C / D2D / D2C	D2D / D2C
利用するクラウド	Arcserve UDP Cloud Hybrid	パブリッククラウド/ クラウドサーバ	パブリッククラウド/ クラウドストレージ	パブリッククラウド/ クラウドストレージ	Arcserve Cloud Direct
クラウド利用の 料金体系	●東日本リージョン： 1TB 192,000円/年 ●西日本リージョン： 4TB 816,000円/年 追加1TB 204,000円/年	パブリッククラウド/ クラウドサーバの 料金に基づく	パブリッククラウド/ クラウドストレージの 料金に基づく	パブリッククラウド/ クラウドストレージの 料金に基づく	●東日本リージョン： 1TB 240,000円/年 ●北米リージョン： 1TB 240,000円/年
クラウドに 転送されるデータ	初回はフルバックアップ 二回目以降は 増分バックアップ	初回はフルバックアップ 二回目以降は 増分バックアップ	フルバックアップ /特定のファイル	フル/増分/差分バックアップ ※定期的にフルバックアップの取得が必要	初回はフルバックアップ 二回目以降は 増分バックアップ
クラウドに 保存されるデータ	フル+増分バックアップ	フル+増分バックアップ	フルバックアップ /特定のファイル	フル/増分/差分バックアップ	フル+増分バックアップ
オンプレミスに 必要な環境	Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ	Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ	Arcserve UDP バックアップ格納用HDD	Arcserve Backup バックアップ格納用HDD	Arcserve UDP バックアップ格納用HDD

価格は**2024/3/29 (金) Arcserve 受注分まで**となります、これ以降の価格は、最新の[価格表](#)をご確認ください。

(※) Arcserve Cloud Direct だけでもクラウドとローカル両方にバックアップデータを保管する機能があります。

テーマ2：資産を持たずにデータ保護！ ～ D2C

オンプレミスのデータを直接クラウドへバックアップします。
オンプレミスにはバックアップデータ保管用のストレージの導入は不要。
資産を持たずにバックアップ／災害対策環境を構築します。

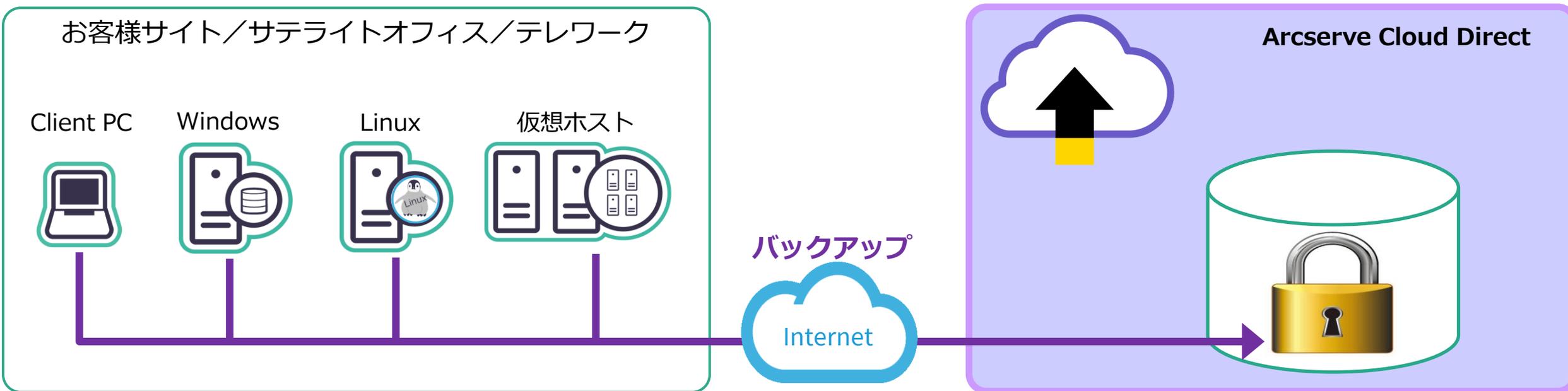


2-A)	Arcserve Cloud Direct に D2C
2-B)	パブリッククラウド に D2C

2-A) Arcserve Cloud Direct に D2C



Arcserve クラウドに直接バックアップ
オンプレミスにバックアップサーバやストレージは不要



継続増分バックアップ
でフルバック取直不要

帯域制御、特定の曜日/
時間指定のバックアップ

復旧機能・管理機能は
全てクラウド上

2-B) パブリッククラウドに D2C



Arcserve Backup でパブリッククラウドストレージに**直接バックアップ**
オンプレミスにバックアップサーバやストレージは不要

お客様サイト／サテライトオフィス／テレワーク

Arcserve Backup
Windows



Arcserve Backup
Linux



Arcserve Backup
仮想ホスト



バックアップ



パブリッククラウドサービス (※)



クラウドストレージ



フルバックアップ／
増分／差分バックアップ

特定の曜日／
時間指定のバックアップ

バックアップ設定は
オンプレミス

テーマ2：資産を持たずにデータ保護！～D2C 比較表

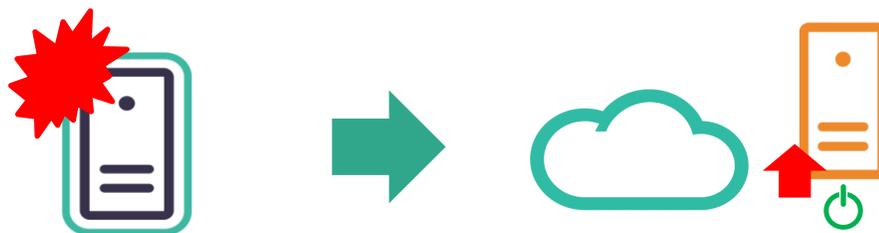


	2-A) Arcserve Cloud Direct に D2C	2-B) パブリッククラウド に D2C
運用形態	D2C	D2C
利用するクラウド	Arcserve Cloud Direct	パブリッククラウド/ クラウドストレージ
クラウド利用の 料金体系	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本リージョン： 1TB 240,000円/年 ●北米リージョン： 1TB 240,000円/年 	パブリッククラウド/ クラウドストレージの料金に基づく
クラウドに 転送されるデータ	初回はフルバックアップ 二回目以降は増分バックアップ	フル/増分/差分バックアップ ※定期的にフルバックアップの取得が必要
クラウドに 保存されるデータ	フル+増分バックアップ	フル/増分/差分バックアップ
オンプレミスに 必要な環境	なし	Arcserve Backup

価格は**2024/3/29（金） Arcserve 受注分まで**となります、これ以降の価格は、最新の[価格表](#)をご確認ください。

テーマ3：クラウドを活用して業務継続！

オンプレミスの災害発生時にクラウド上で業務再開する環境を構築します。
バックアップデータの遠隔地保管だけではなく、
業務継続まで実現するソリューションです。

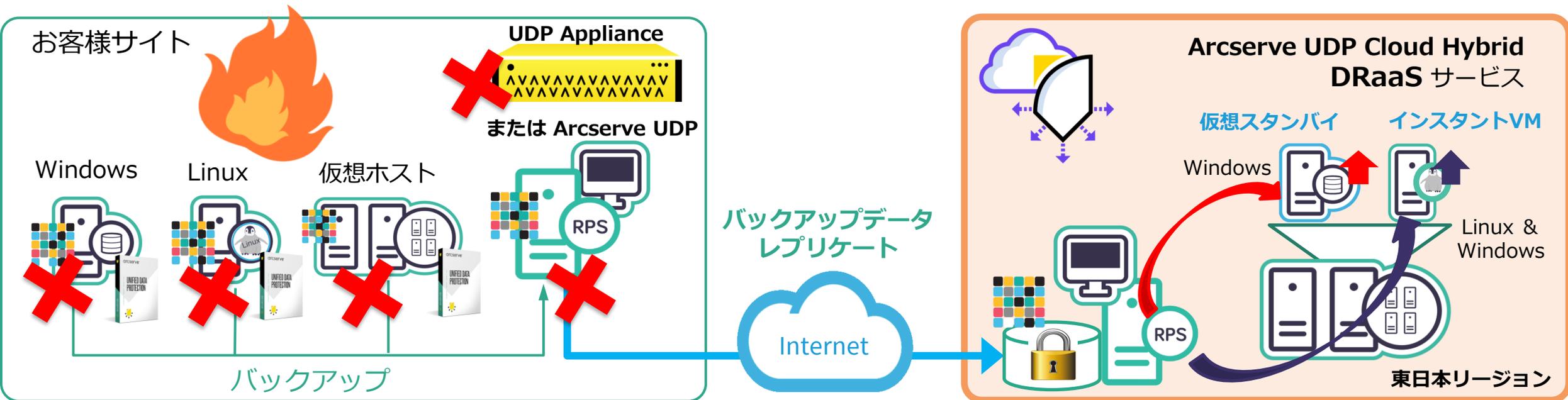


3-A)	Arcserve UDP Cloud Hybrid で DRaaS
3-B)	パブリッククラウドで 仮想スタンバイ/インスタントVM
3-C)	パブリッククラウドに レプリケーション

3-A) Arcserve Cloud Hybrid DRaaS で業務継続



オンプレミスにサイト障害が発生！
クラウド上で **仮想スタンバイ & インスタントVM** を使って **業務継続**



仮想スタンバイ：
障害発生時 仮想マシン
の電源ON 直ぐに業務再開

インスタントVM：
バックアップデータを
仮想マシンとして起動

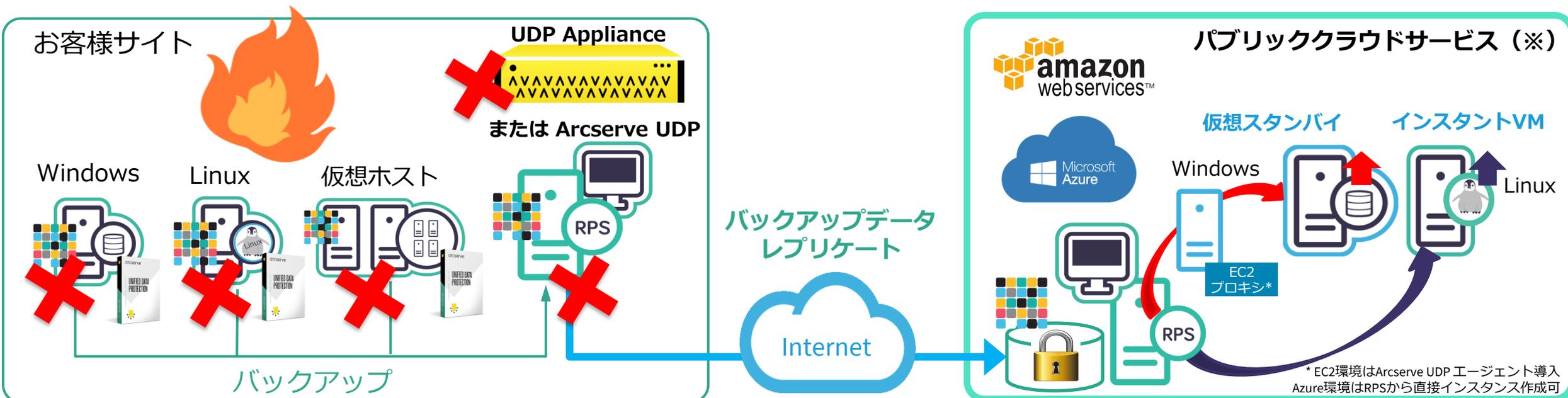
時間が掛かる
オンプレミスへの
リストア中も業務を継続

3-B) パブリッククラウドで仮想スタンバイ/インスタントVM



オンプレミスにサイト障害が発生！

パブリッククラウド上の **仮想スタンバイ & インスタントVM** を使って **業務継続**



仮想スタンバイ：
障害発生時 仮想マシン
の電源ON 直ぐに業務再開

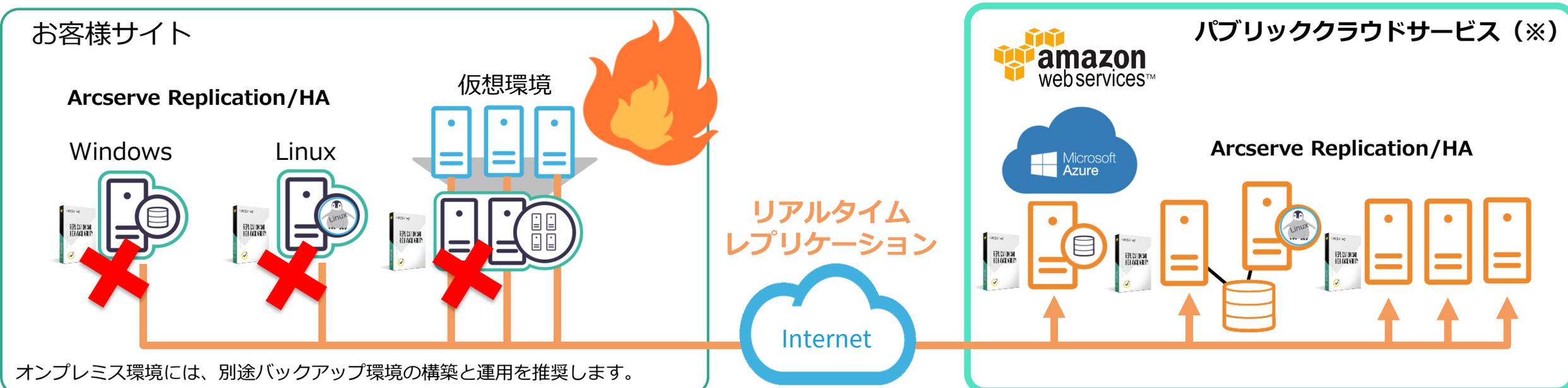
インスタントVM：
バックアップデータを
仮想マシンとして起動

仮想スタンバイは
クラウド上での業務再開
を恒久対策とする事が可能

3-C) パブリッククラウドにレプリケーション



オンプレミスとクラウド間でリアルタイムレプリケーション
オンプレミスにサイト障害発生時はパブリッククラウド上で業務継続



リアルタイムレプリケーションで最新RPOを確保

障害発生時はクラウド上のレプリカサーバに接続し直ぐに利用が可能

クラウド上での業務再開を恒久対策とする事が可能

テーマ3 : クラウドを活用して業務継続！ 比較表



	3-A) Arcserve UDP Cloud Hybrid で DRaaS	3-B) パブリッククラウドで 仮想スタンバイ/インスタントVM	3-C) パブリッククラウドに レプリケーション
運用形態	D2D2C	D2D2C	D2C
利用するクラウド	Arcserve UDP Cloud Hybrid	パブリッククラウド/ クラウドサーバ	パブリッククラウド/ クラウドサーバ
クラウド利用の 料金体系	●東日本リージョン： 1TB 192,000円/年 1vCPU&4GB 63,000円/年	パブリッククラウド/ クラウドサーバの 料金に基づく	パブリッククラウド/ クラウドサーバの 料金に基づく
クラウドに 転送されるデータ	初回はフルバックアップ 二回目以降は増分バックアップ	初回はフルバックアップ 二回目以降は増分バックアップ	更新されたデータを リアルタイムに転送
クラウドに 保存されるデータ	フル+増分バックアップ	フル+増分バックアップ	更新された最新データ
オンプレミスに 必要な環境	Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ	Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ	Arcserve Replication/HA

価格は**2024/3/29（金）Arcserve 受注分まで**となります、これ以降の価格は、最新の[価格表](#)をご確認ください。

テーマ4：クラウド上システムの保護 ～ C2C

クラウド環境でもデータ保護は必要です。
クラウド上に構築したシステムを論理障害・サイト障害から守るため、要件に応じたデータ保護環境を構築します。

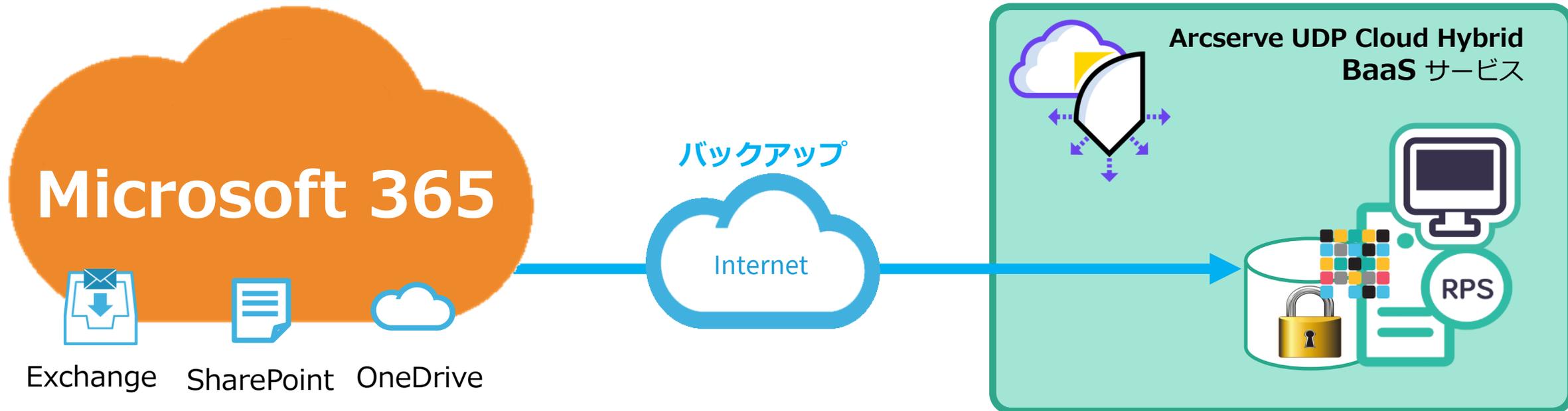


4-A)	Microsoft 365 を Cloud Hybrid で C2C
4-B)	クラウド上のシステムを Cloud Direct で C2C
4-C)	クラウド上の Arcserve ライセンスカウント例

4-A) Microsoft 365 を Cloud Hybrid で C2C



Microsoft 365 (Exchange / SharePoint / OneDrive)
を Arcserve クラウドへ直接バックアップ



オンプレミスにストレージや
ソフトウェアの購入不要

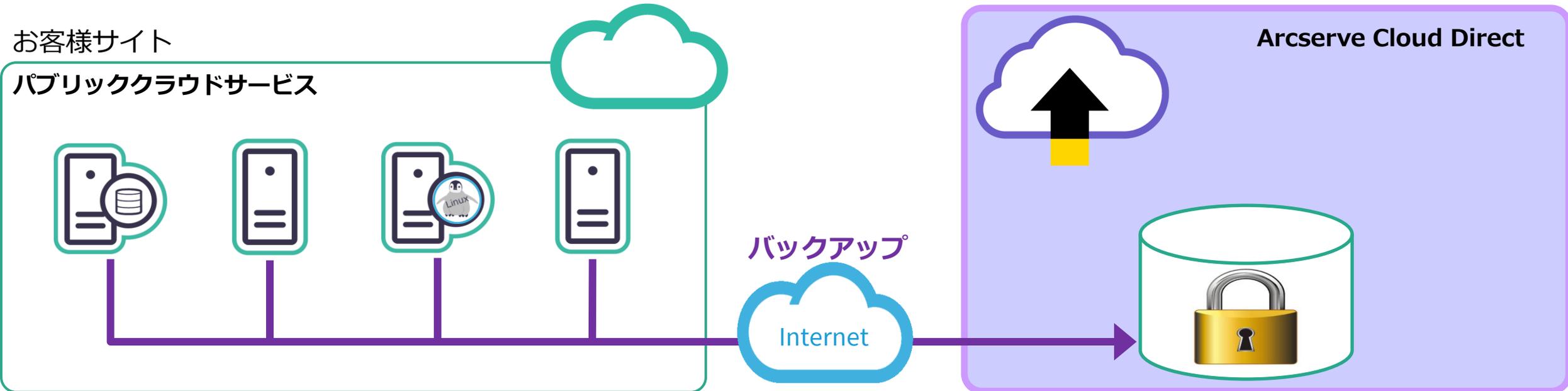
帯域制御、特定の曜日/
時間指定の転送

容量による従量課金
Microsoft 365ユーザ数は
クラウド料金には影響なし

4-B) クラウド上のシステムを Cloud Direct で C2C



クラウド上システムのサイト障害に備え
Arcserve クラウドにバックアップ



継続増分バックアップ
でフルバック取直不要

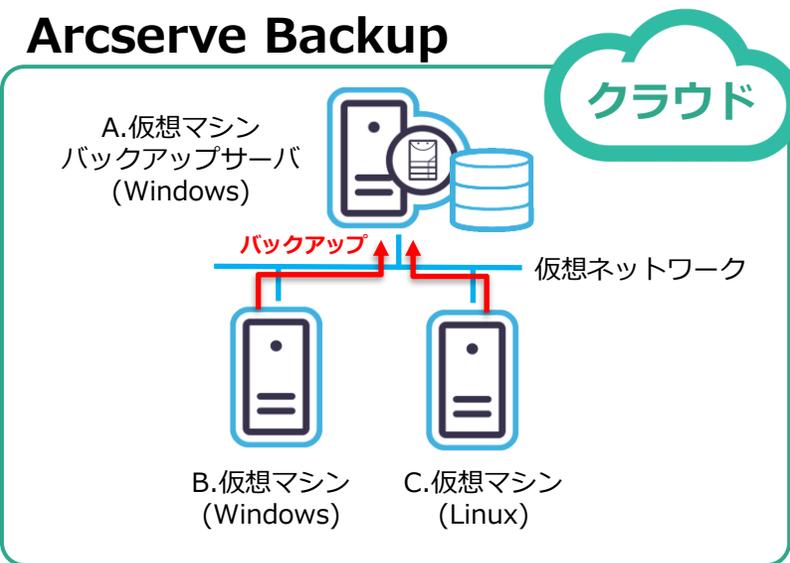
帯域制御、特定の曜日/
時間指定のバックアップ

クラウド上システムの
障害に備えたC2C

4-C) クラウド上(※)の Arcserve ライセンスカウント例



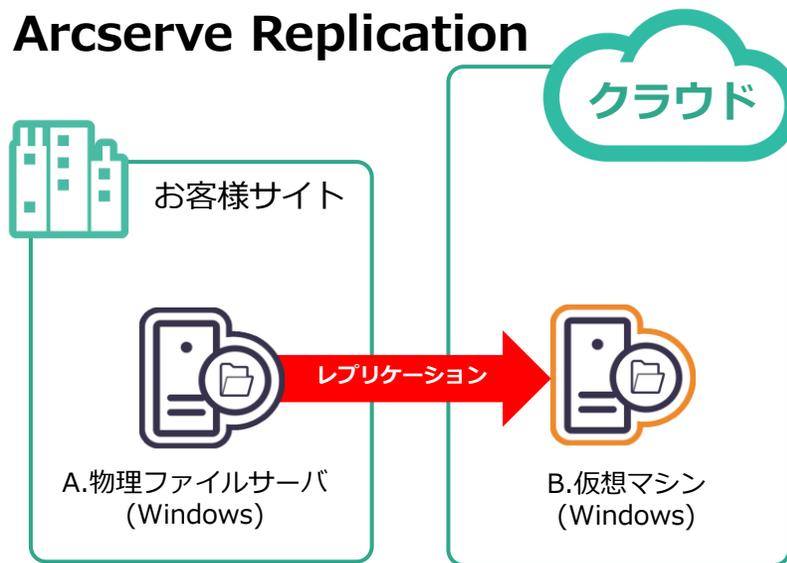
Arcserve Backup



製品名	適用	ライセンス数
Arcserve Backup	A	1
Guest based Virtual Machine Agent Bundle	B, C	2

仮想マシンのデータをバックアップサーバに作成したディスクベースデバイスにバックアップできます。サポートしているクラウドストレージであればバックアップ先のクラウドデバイスとして利用することもできます。Arcserve Backupのエージェント製品を利用すると、クラウド仮想マシン上のSQL DBや、Oracle DBのオンラインバックアップを実現します。

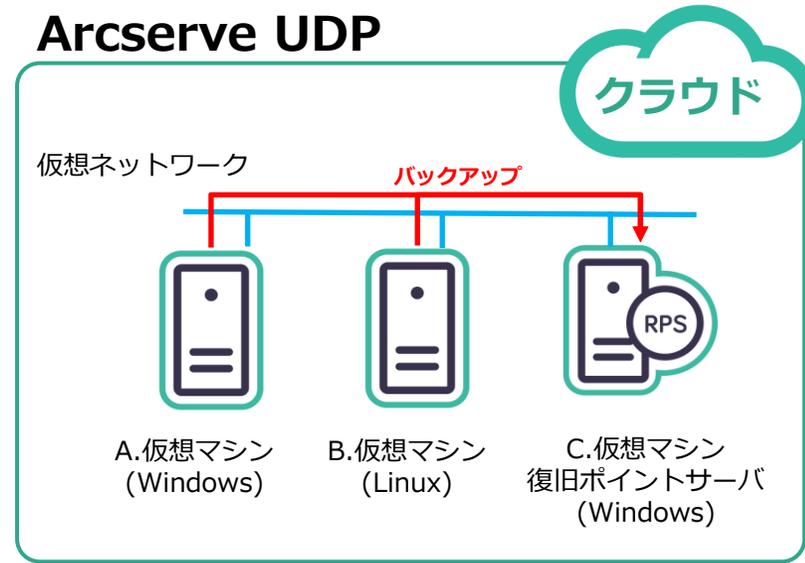
Arcserve Replication



製品名	適用	ライセンス数
Arcserve Replication Standard for File Server	A	1
Arcserve Replication Virtual Machines	B	1

お客様サイトとクラウド上の仮想マシン間でレプリケーションができます（クラウド間のレプリケーションも可能です）。仮想マシンは、WindowsのEditionを問わず、Virtual Machinesライセンスをご利用いただけます。Linux OSの場合、フルシステムシナリオでの対応となり、Linux用のライセンスで構成します。

Arcserve UDP



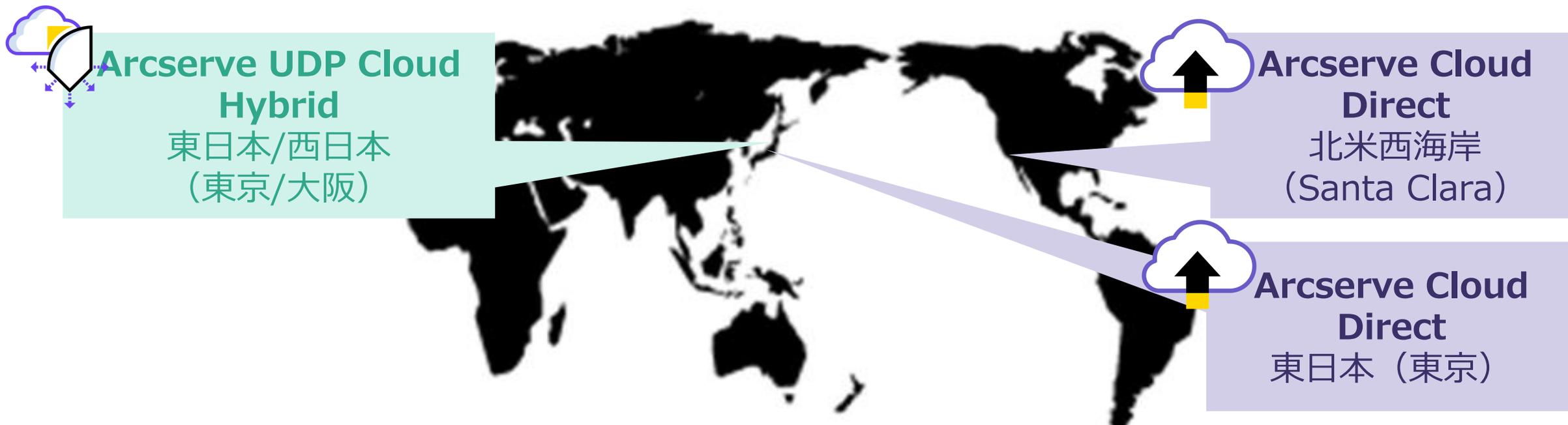
製品名	適用	ライセンス数
Arcserve UDP Advanced Edition Server	A, B	2

Advanced Editionをご利用の場合1クラウド仮想サーバにつき1サーバ単位ライセンス、Premium Edition以上の場合、1クラウド仮想サーバにつき1ソケット単位ライセンスが必要になります。（仮想CPU数や仮想コア数に関係なく）必要になります。尚、旧バージョンから無償アップグレードをされている場合、従来通りのご利用が可能です。復旧ポイントサーバを保護対象としない場合、復旧ポイントサーバ用のライセンスは不要です（復旧ポイントサーバの構成は必須ではありません）。

Arcserve Business Continuity Cloudのデータセンター



Tier IV 相当（一部 Tier III 相当）の高いセキュリティ・対災害性を持つデータセンターで運用されています。



電源/空調など
設備の冗長化

免震/耐震構造

安全性の高い
立地

厳密な
入館入室管理

Cloud Hybrid / Cloud Direct 比較



項目	Arcserve UDP Cloud Hybrid		Arcserve Cloud Direct	
利用可能リージョン	東日本（東京都）	西日本（大阪府）	東日本（東京都）	北米西海岸 (Santa Clara)
クラウドの利用形態	D2D2C (*1)	D2D2C (*1)	D2C / C2C	D2C / C2C
提供サービス	BaaS / DRaaS	BaaS	BaaS	BaaS
転送されるデータ	継続増分 バックアップデータ	継続増分 バックアップデータ	継続増分 バックアップデータ	継続増分 バックアップデータ
初期ストレージ容量 と料金	1TB : 192,000円/年	4TB : 816,000円/年	1TB : 240,000円/年	1TB : 240,000円/年
追加ストレージ容量 と料金	1TB : 192,000円/年	1TB : 204,000円/年	1TB : 240,000円/年	1TB : 240,000円/年
インスタンスの容量	1TB ~ 60TB	4TB ~ 16TB	1TB ~ 20TB	1TB ~ 20TB
オンプレミスに 必要なソフトウェア	Arcserve UDP(*2)	Arcserve UDP(*2)	なし	なし
オンプレミスに 必要なハードウェア	RPSとコンソールを 導入できるサーバとストレージ または、UDPアプライアンス(*2)	RPSとコンソールを 導入できるサーバとストレージ または、UDPアプライアンス(*2)	なし	なし

(*1) Microsoft 365のバックアップをする場合はC2C

(*2) Arcserve UDP Cloud Hybrid で Microsoft 365 をクラウドに直接バックアップする場合は不要

(※) 価格表はこちらをご確認ください。 <https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/licensing-options/>



arcserve®

2021年1月 Rev: 1.0 初版作成
2021年3月 Rev: 1.1 誤記修正
2024年3月 Rev: 1.2 最新の提供サービス状況に更新、価格改定の注記追加